

# 通訳やボールパーソン講習会

## 「イイツカ方式」伝授

### 市民や学生 12日開幕へ準備



飯塚国際車いすテニス大会(九州車いすテニス協会主催、西日本新聞社など共催)が12日に開幕するのを前に、市民ボランティアが選手の迎え入れ準備を進めている。外国人選手の通訳やボールパーソンの講習会を相次いで開催。ボランテ

ィアが運営を支える「イイツカ方式」のノウハウを、初参加の市民にも引き継いだ。

第1回大会から通訳を務めるボランティア団体「筑豊SGG」は4月下旬に講習会を開催。市民約10人にSGGの会員が送迎時の対応などを説明した。

今年初めてロシア人選手が出場する予定で、嘉麻市熊ヶ畑の元高校教諭大里悠治さん(75)が通訳を務める。教諭になる前に勤務した鉄鋼会社でロシア船の荷物搬入を担当。船員とのやりとりや会社が雇った通訳と話すうちにロシア語を覚えてきたという。大里さんが通訳を務めるのは、11日の歓迎レセプションのみだが

「大会になじめるよう、当時の思い出話をして雰囲気をもませたい」と話した。

田川市の県立大では、ボ

ボールパーソンのノウハウを学ぶ大学生たち



ールパーソンの講習会があった。経験者が初参加の部員に、ボールを拾って選手に渡すタイミングなどを教えた。県立大3年清木場允

ん(21)は「判断を間違つと試合の流れが変わる。一瞬も気は抜けない。僕たちも真剣勝負」と話した。

(中山雄介)